

# “東京オリ・パラ” レガシー Eテレ 「手話通訳放送」の意義

2021年8月8日午後8時から始まった東京オリンピックの閉会式。スポーツ国際イベント初となる手話通訳放送をNHK・Eテレが行った。Twitterでは、「リアルタイムでの情報保障の提供、手話通訳のわかりやすさ、手話通訳の上半身が映るレイアウト、すべてに感謝です」など、閉会式をリアルタイムで共有できたことを喜ぶ声があふいた。「映像のみが流れている」画面を見ているだけだったきこえない人・きこえにくい人に一つの転換を印象づけた。東京パラリンピックでは開会式と閉会式が手話通訳放送となった。

今回の挑戦を東京大会の「レガシー」とするために、その意義と何を生かすのかを関係者の寄稿で考えたい。(企画担当:吉井 勇・本誌編集部)

## 特集構成

- ・ **当事者(全日本ろうあ連盟など)要望とNHK回答の経緯**  
本誌編集部まとめ
- ・ 「多様性と調和」を目指した  
オリ・パラの公共放送における課題  
特定非営利活動法人インフォメーションギャップバスター  
理事長 伊藤芳浩氏
- ・ Eテレ手話通訳放送の実現で感じた  
「多様性と調和」という超難問のジレンマ  
弁護士・聞こえないきょうだいをもつSODAソーダの会  
代表 藤木和子氏
- ・ 当事者としての全日本ろうあ連盟の考え  
一般財団法人全日本ろうあ連盟 本部事務所 所長 倉野直紀氏
- ・ IPTVアクセシビリティ規格を生かしたテレビ放送を  
目指すために  
社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会  
東京手話通訳等派遣センター センター長 高岡 正氏
- ・ IPTV標準規格による手話通訳の映像付与について  
株式会社アステム 代表取締役 大嶋雄三氏
- ・ NHKに聞く「東京オリ・パラで実施した手話通訳放送の  
考えと現場の対応」  
回答: NHK広報

## 当事者(全日本ろうあ連盟など)要望と NHK回答の経緯

- ・ 7月22日付 全日本ろうあ連盟(ろうあ連盟)が組織委、NHK、民放連、放送ジャパンコンソーシアム(JC)へ「緊急要望」
    - ① オリ・パラ開閉会式で準備する手話通訳映像の放送局利用
    - ② 開閉会式の国歌斉唱で「国歌の手話言語訳」の使用を。
- 7月23日: オリンピック開会式の放送に手話言語通訳が付与されず。
- ・ 7月24日付 NPOインフォメーションギャップバスター・手話推進議員連盟が連名で「オリ・パラ開閉会式に配置される手話通訳をテレビ放映にも放映を。メインチャンネルでの放映が困難な場合、BSやサブチャンネル、再放送などで手話通訳の放映」を要請。
  - この時点では、ろうあ連盟は会場の手話通訳を放送で利用(組織委に会場の手話通訳をテレビ局にも提供できる配慮)という要望だったが、23日開会式の放送で「全国のきこえない・きこえにくい視聴者から大きな疑問と不満の声」として、7月26日付で「緊急要望書」をNHK、民放連に提出。
  - ・ 7月26日付 「緊急要望書」①オリ閉会式とパラ開閉会式の放送で手話言語通訳の付与、②JCで行われる世界的なスポーツイベントに手話通訳を付与できる体制づくり、③早急にNHKと民放連、ろうあ連盟が協議できる場を設けることをNHK、民放連、JCに提出。
  - 7月27日付: NHK「2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部・専任局長 藪並整司名」で回答。  
「7月22日・26日付の要望書につきまして」から始まる文書
    - ① 公共メディアとして東京オリ・パラでもさまざまなユニバーサル放送・サービスを展開。
    - ② 開閉会式や競技放送での生字幕の付与に加え、CGキャラクターによる手話での競技実況や、競技データを活用した自動実況などのサービスを実施。
    - ③ オリ閉会式、パラ開閉会式で会場の大型ビジョンに表示される手話通訳を放送で表示。
  - ・ 7月29日付 ろうあ連盟「回答を受けての再要望」  
「貴会からの回答は、当連盟からの一部の要望項目への回答